

学習意欲を高めるための指導の工夫

秋田県立羽後高等学校 教諭 佐藤 寿子

1 研究の目的

毎年年度初めに英語の授業に関する簡単なアンケートを行っている。今年度は1年生を担当しているが、英語が嫌いだと答える生徒が学年の約5割、苦手であると答える生徒が約8割であった。また、1年間を通して身につけたい力については、圧倒的に「話す力」が多く、次いで「書く力」、「文法などの基本的な力」であった。英語に苦手意識がある生徒が多い中で、学習意欲を向上させるためには生徒たちに自信を持たせる必要がある。授業ではペアやグループ活動を通して、協力して課題に取り組んだり、間違いを恐れずに積極的に話したり、書いたりする活動を工夫するよう心掛けている。

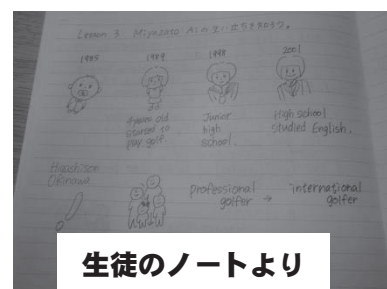
2 研究の内容

(1) ウォームアップ活動の工夫

単語や前時の復習をゲーム形式で行うなど、なるべく短時間で多くの生徒が発言できるような活動を取り入れている。また、レッスン内容と関連するトピックでの会話等をペアで行い、生徒が間違いを恐れずに英語を話すことができるような雰囲気づくりを心掛けている。

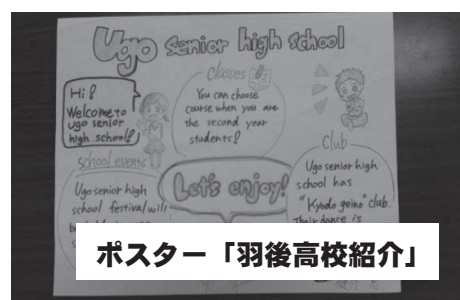
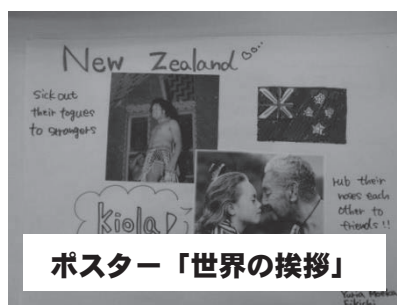
(2) 各パートのリテリング

黒板や、ノートに書かれたキーワードやイラストを用いて行う。



(3) まとめの活動の工夫

- ポスタープレゼンテーション「世界の挨拶」「世界の食文化」「羽後高校紹介」「理想の部屋」各テーマについて、ペアやグループでポスターにまとめて発表する。自分たちでMVPを選んだり、ALTにお気に入りを選んでもらう。ポスターは教室に掲示している。



- ジグソー学習「動物の睡眠」

「ナマケモノ、ラッコ、フラミンゴ、マグロを睡眠時間順に並べよう」という問いを最初に投げかける。次に4つのグループに分かれ、それぞれの動物の睡眠方法や時間を各グループで紹介する文を考える。次に4種類の動物の紹介者がいるようにグループメンバーを変えて、各動物について紹介する。発表を聞き取ると、最初の問いの答えがわかるという活動を行った。



- ・自分のこと、友だちのこと、意見の発表「私の夢」「友だちの生い立ち」「宮里藍選手へインタビュー」「ツバルを水没から救うためにできること」など

「ツバルを水没から救うためにできること」ハンドアウトより抜粋

What is the most important thing for you?

あなたにとって大切なものは？
パートナーにも聞いてみましょう



The important thing for me is...

The important thing for my partner is ...

What is important for Tuvaluan children?

ツバルの子供たちにとって大切なものは？



Each person has an important thing of their own.

それぞれの人に、それぞれの大切なものがあります。

しかし、彼らが大切にしているものが現在失われつつあります。

Tuvalu is now facing problems such as flooding, shoreline erosion, marine pollution and water shortage. There are many opinions, but global warming is the main cause of these problems.

What can we do for Tuvalu?

Five Things We Can Do For Tuvalu

Here are five things we can do to prevent global warming and help Tuvalu stay above water.

1.

2.

(省略)

これら5つのことをすると、ツバルの子どもたちを救うことができるだけでなく、将来日本でも起きてくる、資源不足、ゴミ問題、水の問題等の大変な問題を防ぐことにもなるはずです。あなた自身のために、世界の人のために、5つのことをまずやってみましょう！

Children in Tuvalu will appreciate your effort!

参考『地球温暖化、しずみゆく楽園ツバル』山本敏晴

- ・各グループが文法の先生となり，クラスメイトに教える
「文法のまとめ」

既習の文法事項をグループで担当し，クラスメイトに教える方が復習にもなるし，覚えるのではないかと考え，取り入れた。生徒が教え合ったり学び合ったりする姿も見られた。意外な生徒が説明上手であるなど生徒の長所を発見する機会にもなった。理解が不十分なところは，個人的に助言しつつ，全体で再確認する必要がある。



以上，まとめの活動ではできるだけ多くの友だちと関わり，学び合いができるようグループ活動の工夫を心掛けている。各活動の振り返りはシートに記録している。また，学期の区切りで Can-Do List を用いて，できるようになったことを確認している。

(4) 外部とのかかわり

本校の卒業生が現在ウガンダで日本語を教えており，ぜひ年齢の近い高校生とやりとりをさせたいと思い，メール交換を始めたばかりである。いずれ双方の環境が整ったら，スカイプを用いての交流も予定している。メールの返信をもらった生徒は「自分が書いた英語に同じくらいの年齢の外国人が返事を書いてくれたことがうれしかった。もっと日本や羽後高校のことを英語で紹介したい」と言っていた。

3 成果と課題

【成果】

- ・9月に再度行ったアンケートの結果によると，英語が嫌いだと答えた生徒が約2割，英語が苦手という生徒が約5割で，英語の苦手意識が改善された生徒が多かったようである。
- ・様々な表現活動を通して，「自分が言いたいことが英語で言えた」，「仲間と協力してポスターを作り，発表できた」と達成感を持つ生徒が増えた。

【課題】

- ・活動内容を盛り込みすぎたり使用表現を多く提示したりして，生徒に負担を感じさせないよう工夫が必要である。
- ・間違いを恐れずに英語を話したり書いたりすることができるようになったが，生徒の意欲を持続させつつ，もっと正確に英語で表現できるような文法力を身につけさせる工夫も必要である。
- ・「どんな力が身についたと思いますか」という質問に対し，読む力が22%，話す力が20%であった。これは生徒の主観であり，客観的に力が付いているかは計れていないので，どう評価するか，どう生徒にフィードバックするかを考えたい。
- ・生徒が身に付けたことを，クラスや学校の中だけでなく，もっと外へ発信させる手立てを考えていきたい。